

経済・金融
フラッシュ米個人所得・消費支出(24年8月)
年次改定に伴い貯蓄率は大幅上方修正

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 個人所得(前月比)、個人消費ともに市場予想を下回る

9月27日、米商務省の経済分析局(BEA)は8月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.2%(前月: +0.3%)と前月を下回ったほか、上昇を見込んだ市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.4%も下回った(図表1)。個人消費支出は前月比+0.2%(前月: +0.5%)と前月を下回ったほか、市場予想の+0.3%も下回った。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は+0.1%(前月: +0.4%)と前月を下回った一方、市場予想の+0.1%に一致した(図表5)。貯蓄率¹は4.8%(前月: 4.9%)と前月から▲0.1%ポイント低下した。

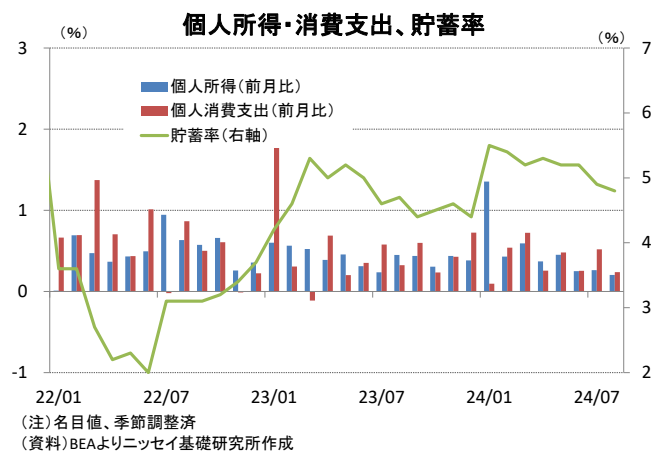
価格指数は、総合指数が前月比+0.1%(前月: +0.2%)と前月を下回った一方、市場予想(+0.1%)に一致した。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は前月比+0.1%(前月: +0.2%)とこちらは前月、市場予想(+0.2%)を下回った(図表6)。前年同月比は総合指数が+2.2%(前月: +2.5%)と前月、市場予想(+2.3%)を下回った。コア指数は+2.7%(前月: +2.6%)とこちらは前月を上回った一方、市場予想(+2.7%)に一致した(図表7)。

2. 結果の評価: 年次改定に伴い貯蓄率は大幅に上方修正

個人消費(前月比)は+0.2%と、大幅な伸びとなった前月から低下した(図表1)。7月は自動車関連が特殊要因で大幅な増加となっていたため、その反動もあって低下が見込まれていたものの、予想以上の低下となった。

一方、貯蓄率は7月が年次改定に伴う可処分所得の大幅上方修正の結果、改定前の2.9%から4.9%に大幅に上方修正された。このため、8月の貯蓄率は前月から小幅低下したものの、改定前に当初想定されていたよりも大幅に水準が高く、所得対比で消費余力があることが明らかになった。このため、個人消費の持続可能性が強まったと言える。

(図表1)



¹ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

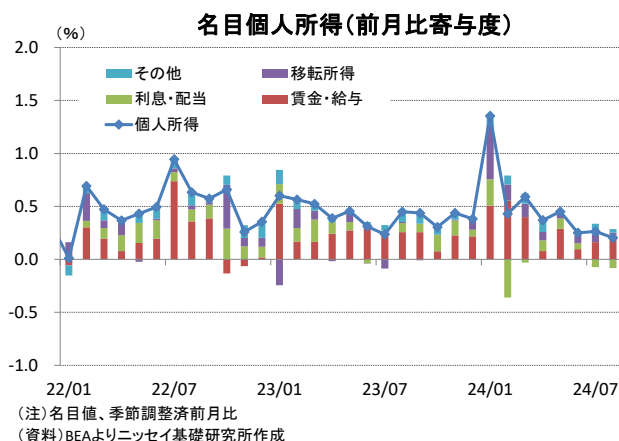
一方、F R Bが物価指標としているP C E価格指数は前年同月比では総合指数が前月から低下したものの、物価の基調を示すコア指数は前月から5カ月ぶりに小幅上昇した。もっとも、前月比では総合指数、コア指数ともに前月から小幅に低下しており、物価上昇圧力の緩和が続いていることを確認した。このため、インフレの落ち着きを背景に、次回11月F O M C会合での利下げ幅は益々労働市場の動向が鍵となった。

3. 所得動向: 自営業者所得、利息配当収入が減少

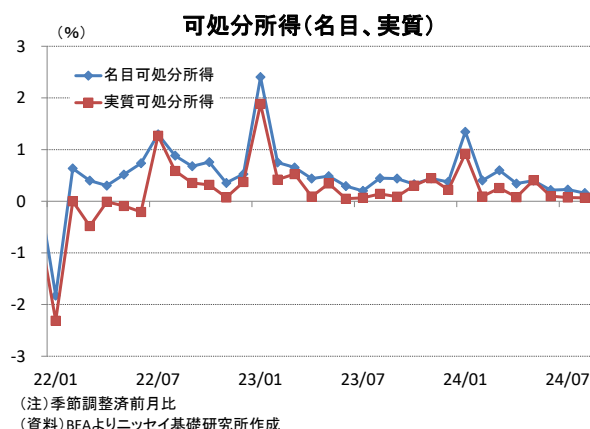
8月の個人所得（前月比）では、賃金・給与が+0.5%（前月：+0.3%）と前月から伸びが加速した。一方、移転所得が+0.1%（前月：+0.4%）と前月から伸びが鈍化したほか、自営業所得が▲0.2%（前月：▲0.7%）、利息配当収入が▲0.5%（前月：▲0.5%）とマイナスとなった。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、8月の名目が+0.2%（前月：+0.2%）と前月並みの伸びとなった（図表3）。また、価格変動の影響を除いた実質ベース（前月比）も+0.1%（前月：+0.1%）と前月並みの伸びとなった。

（図表2）



（図表3）



4. 消費動向: 前月の反動で自動車関連が大幅に減少

8月の名目個人消費（前月比）は、サービス消費が+0.4%（前月：+0.3%）と前月から小幅に伸びが加速した一方、財消費が▲0.1%（前月：+0.9%）と前月の大幅なプラスから小幅ながらマイナスに転じた（図表4）。

財消費は、耐久財が▲0.2%（前月：+1.1%）、非耐久財が▲0.1%（前月：+0.8%）といずれも前月からマイナスに転じた。

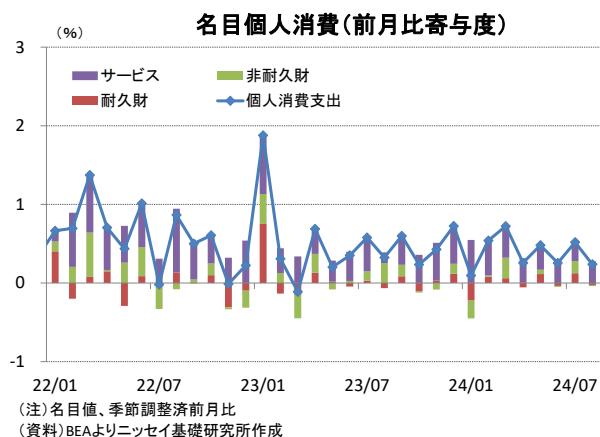
耐久財では、娯楽財・スポーツカーが+1.1%（前月：▲0.7%）と前月からプラスに転じた一方、家具・家電が+0.2%（前月：+0.4%）と前月から伸びが鈍化したほか、自動車・自動車部品が▲2.0%（前月：+4.2%）とマイナスに転じた。自動車販売は、6月に全米の自動車販売店の半数と取引のあるソフトウェア会社のCDKグローバルがサイバー攻撃を受けて6月に大きな打撃を受け、7月はサイバー攻撃の解消に伴う回復がみられたが、8月は7月の大幅な増加の反動で減少した。

非耐久財では衣料・靴が▲0.1%（前月：▲0.1%）と前月に続いてマイナスとなったほか、ガソリン・エネルギーが▲1.6%（前月：+2.4%）、食料・飲料が▲0.4%（前月：+0.7%）といずれも前

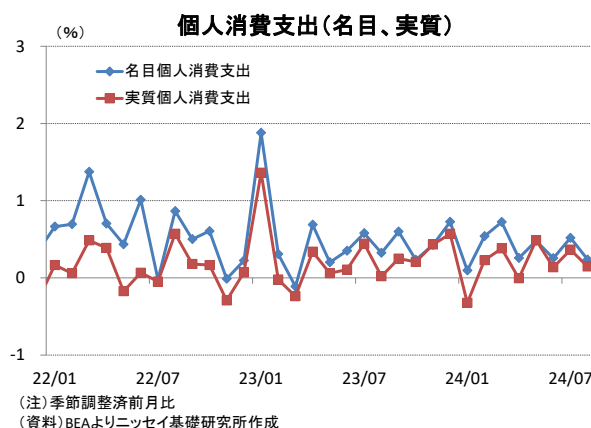
月からマイナスに転じた。

サービス消費は、住宅・公共料金が+0.4%（前月：+0.5%）、医療サービスが+0.2%（前月：+0.3%）、
外食・宿泊が+0.3%（前月：+0.4%）と前月から伸びが鈍化した一方、輸送サービスが+0.7%（前
月：▲0.1%）と前月からプラスに転じたほか、娯楽サービスが+1.2%（前月：+1.1%）、金融サ
ービスが+0.7%（前月：+0.5%）と前月から伸びが加速するなどマチマチの結果となった。

（図表 4）



（図表 5）

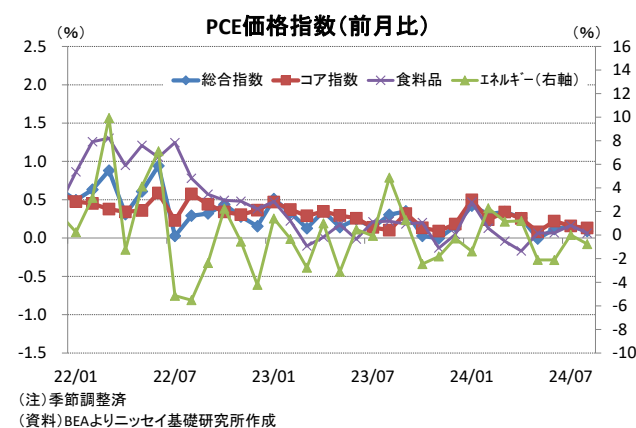


5. 価格指数: エネルギー価格は前月比、前年同月比ともにマイナス転換

価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が▲0.8%（前月：横這い）と前月から
マイナスに転じた（図表 6）。一方、食料品価格指数は+0.1%（前月：+0.2%）とこちらは4ヵ月連
続でプラスとなった。

前年同月比は、エネルギー価格指数が▲5.0%（前月：+0.4%）と6ヵ月ぶりにマイナスに転じ
た（図表 7）。食料品価格指数は+1.1%（前月：+1.2%）と86ヵ月連続でプラスとなった。

（図表 6）



（図表 7）

